



ふたたびの出会い 日韓近代美術家のまなざし ——『朝鮮』で描く Reappreciated:

Korean and Japanese Modern Artists in the Korean Peninsula, 1890s to 1960s

다시 만남 : 한일 근대 미술가들의 눈 — “조선”에서 그리다

それぞれの美術に隠された物語

藤島武二・土田麦僊・山口蓬春・鳥居昇・
高義東・李快大・李仁星・金秉騏など120余人



藤島武二《花籠》1913年 京都国立近代美術館蔵

2015年4月4日(土)～5月8日(金)

(4月20日(月)に一部展示替え)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(5月4日は開館)

主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
後援：外務省、駐日韓国大使館 韓国文化院、駐横浜大韓民国総領事館
協力：横須賀美術館、光州市立美術館
協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
観覧料：一般1,000円(900円)/20歳未満・学生850円(750円)/
65歳以上500円/高校生100円

*()内は20名以上の団体料金です。 *中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。その他の割引につきましてはお問合せください。 *ファミリー・コミュニケーションの日：毎月第1日曜日(今回は4月5日、5月3日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は、優待料金(65歳以上の方を除く)でご覧いただけます。



鳥居昇《老婆》(部分)1943年 神奈川県立近代美術館蔵



高義東《程子冠をかぶる自画像》(部分)1915年 東京藝術大学蔵



李快大《自画像》(部分)1948-49年 遺族蔵



本展は、20世紀前半における日本と韓国の美術、そして美術家同士の交流に焦点をあてた展覧会です。さまざまな矛盾に満ちた「近代」という時代の中、日韓両国の美術家たちは、みずから置かれた社会的な限界とたくさんの苦難を抱えながら、そこにとどまらずそれを越えようとする眼差しを持ち、芸術の力で個々の世界を深めていきました。今わたしたちは、彼らの作品と、新たな目でふたたび出会おうとしています。

藤島武二、土田麦僊、山口蓬春、浅川伯教・巧、山口長男など日本近代美術を代表し韓国に縁の深い作家たち。高義東（コ・フィドン）、李仁星（イ・インソン）、李仲燮（イ・ジュンソプ）、李快大（イ・クェデ）、金秉駟（キム・ビョンギ）ら、日本との交流をもつ韓国近代美術の巨匠たち。そして鳥居昇や荒井龍雄、佐藤九二男、入江一子など、これまでほとんど注目されてこなかった戦前の在「朝鮮」日本人作家の作品を、最新の研究成果をふまえて多数ご紹介します。これにより、この時代のアートシーンの複雑で多元的な側面もまたご覧いただけます。

困難な社会情勢の中、芸術の力を信じて制作に励んだ先人たちの努力の精華は、21世紀の日韓両国を生きる我々に大きな勇気と希望を与えてくれることでしょう。

1 「朝鮮」との出会い

古来、行き来の絶えたことのない日韓ですが、「近代」にはその交流はさらに複雑になりました。日本から朝鮮半島に渡る美術家も、旅行・展覧会の審査員・教師として赴任・家業のため、など目的はいろいろでした。また「朝鮮」生まれの日本人美術家もいます。様々な立場の日本の美術家が「朝鮮」と出会ったときに何を表現したのでしょうか。第1章では、日本人美術家の作品を中心に、もの珍しく思えた風俗や妓生、あこがれの陶磁器など、作品が語ることになった「朝鮮」という「ものがたり」に注目します。



上段左から
藤島武二《花籠》1913年 京都国立近代美術館蔵／
荒井龍雄 《尼僧舞》1943年 個人蔵／浅川巧
『朝鮮の膳』1929年 大阪市立東洋陶磁美術館蔵



2 近代「朝鮮」の風景

日本から来訪した美術家は、「京城」の王宮建築、城門などの名所旧跡に眼をひきつけられます。しかし移住して「朝鮮」に生活の基盤を根付かせた日本人美術家の眼は来訪者とは異なり、この地の伝統的画題を取り上げたり、何気ない家屋の風景に造形的な関心を寄せました。一方韓国の美術家は近代化していく街の風景を描いています。古来の聖地で近代

には一大観光地となった金剛山

は、日韓の美術家がともに描きました。美術家たちのアプローチや表現の違いもまた、隠された物語の読みとときのヒントとなります。



上段左から
藤田綱治《朝鮮風景》1913年 下関市立美術館蔵 © Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2015 / 金重鉉《貞洞風景》1948年 韓国国立現代美術館蔵 / 結城素明《金剛山》1926年以降 神奈川県立近代美術館蔵

3 近代「朝鮮」の日常

1876年の開国以降、朝鮮王朝、大韓帝国は近代化の激しい波を受けます。1910年の日本による併合は一層の拍車をかけ、北東アジアでも類を見ないスピードで近代化が進みました。近代建築が建ち並ぶ都市の風景。洋装のモダン・ガールやモダン・ボーイ。伝統衣装を身に着けた若い女性が座っているのは、モダンな品々に囲まれた室内。先鋭的なデザインを見せる雑誌や書籍。植民地支配の精神的苦痛の一方で、あえて伝統とも意識されないほど生活の中にとけこんだ、かざらない日常の一コマもまた、近代「朝鮮」の一面でした。



上段左から
李仁星《黄色いワンピースの婦人像》個人蔵／鳥居昇《老婆》1943年 神奈川県立近代美術館蔵／石井柏亭《厨》1918年 松本市美術館蔵／長谷川朝風《四温》1940年 岐阜県美術館蔵



4 美術グループと師弟関係

従来、日韓近代美術の交流といえば、1922年に朝鮮総督府による統治政策の一環として創設された「朝鮮美術展覧会」と、東京美術学校など日本の美術教育機関への「朝鮮」からの留学によって説明されてきました。しかし美術家同士の個々の交流をみると実際は「朝鮮」と日本「内地」でのより多様な関係が見えてきます。「朝鮮」では韓国人による韓国人のための研究・展覧会機関が運営される一方、在住日本人によるグループ活動や美術雑誌の刊行、また数は少ないものの日韓両方の美術家が参加・交流した活動もありました。作画の伝統を共有し、画帖に両国の絵や書を合作する慣例のある東洋画では、個人的師弟関係や作品の贈答も行われていました。日本「内地」のグループである自由美術家協会には「朝鮮」の美術家が多数参加し1940年には「京城」展を実現しています。

もちろんすべてが「交流」していたわけではなく、「交流」としてすべてを一元化することはできません。社会的な関係の織りなす歴史と自由な個人の活動としての美術を簡単にひとくくりにはできない、困難な複雑さがそこには存在するのです。

5 エピローグ

1945年8月15日、日本は第二次世界大戦で敗戦し、「朝鮮」は植民地支配から解放されました。その後、日韓は1965年に国交正常化を果たします。1945年以前から活動していた美術家は美術教育や展覧会活動を牽引し、韓国美術界発展に大きな役割を果たす一方、敗戦で日本に引き揚げた美術家は、一部の例外を除き日本美術界では目立った活動を行わず、埋もれた存在となった場合が少なくありませんでした。

展覧会の締めくくりとして、戦前から注目すべき活動を展開した韓国人美術家ならびに「朝鮮」と深く関わった日本人美術家、両者の「その後」の作品を紹介します。1945年以前と以降を結んで営まれた彼らの創造の軌跡は、今を生きる私たちの、葛藤や悩みをそれぞれに抱きながらも、未来への共感をはぐくんでいくための、ひとつの道しるべではないでしょうか。



上段左から
李仲燮《旅だつ家族》1954年 個人蔵／曹良奎《人物デッサン》1953年 個人蔵／山口長男《かたち》1951年 神奈川県立近代美術館蔵

ふたたびの出会い

다시 만남 : 한일 근대 미술가들의 눈 — “조선”에서 그리다

Reappreciated: Korean and Japanese Modern Artists in the Korean Peninsula, 1890s to 1960s

日韓近代美術家のまなざし—『朝鮮』で描く

関連プログラム

日韓文化交流プログラム

第一部 特別講演会

「愛と叛逆—1930年代東京 アヴァンギャルド洋画研究所と文化学院」(仮題)

2015年4月4日(土)午後1時~2時30分

会場: 神奈川県立近代美術館 葉山 講堂 申込不要(先着50名)

講師: 金秉駿(キム・ビョンギ) 画家/本展出品作家 1916年平壤生まれ、1930年代に日本留学、現在LA在住)

聞き手: 金恵信(キム・ヘシン 沖縄県立芸術大学准教授)・李美那(当館主任学芸員)

第二部 国際シンポジウム

「複層—日韓近代美術家たちのまなざしが開く新たな地平」

2015年4月5日(日)午前10時~午後5時(開場は午前9時45分)

会場: 国際交流基金ビル さくらホール(東京都新宿区四谷4-4-1)

アクセス: <http://www.jpfa.go.jp/about/outline/contact/map.html>

(第二部の会場は第一部の特別講演会と異なります。お間違えのないようお気をつけください)

*どなたでもご参加いただけますが、できるだけ4月3日(金)までに事前参加登録をお願いいたします。国際交流基金日韓美術シンポジウム受付担当へ「お名前、ご所属先、当日ご連絡のつく連絡先(携帯電話、メールアドレス)」をお送りください。メール: Q_asia_oceania@jpfa.go.jp / Fax: 03-5369-6038。シンポジウムの内容に関するご質問は神奈川県立近代美術館へお問合せください。

発表者・内容等(タイトルはすべて仮題。詳細は本展ホームページをご参照ください)

- ①「李箱の京城と東京」 富井正憲(漢陽大学建築学部客員教授) / コメント: 川村湊(法政大学国際文化学部長・教授)
- ②「自由の精神の場としての文化学院」 金仁恵(キム・イネ 韓国国立現代美術館学芸研究士) / コメント: 水沢勉(本展研究会顧問 神奈川県立近代美術館館長)
- ③「朝鮮で描く—風俗画」 金炫淑(キム・ヒョンスク 本展韓国側監修者 成均館大学校 兼任教授) / コメント: 小勝禮子(栃木県立美術館学芸課長)
- ④「越境/失境/望郷/亡郷 日韓美術家たちの多層性」 李美那(神奈川県立近代美術館主任学芸員) / コメント: 後小路雅弘(九州大学大学院教授)
- ⑤「ディスカッション」発表者+コメンテーター/モデレーター: 水沢勉
- ⑥国際交流会(国際交流基金イベントスペースけやき)

主催: 「日韓近代美術家のまなざし」展研究会・国際交流基金

助成: 公益財団法人ポーラ美術振興財団

協力: 神奈川県立近代美術館・新潟県立万代島美術館・岐阜県美術館・北海道立近代美術館・都城市立美術館・福岡アジア美術館(以上、本展巡回6館)・読売新聞社・美術館連絡協議会

協賛: 眞露株式会社

館長によるトーク

5月2日(土)午後2時~3時

水沢勉(当館館長) 聞き手: 李美那(当館主任学芸員)

申込不要、無料(ただし「日韓近代美術家のまなざし」展の当日観覧券が必要です)

学芸員によるギャラリー・トーク

4月18日(土)、29日(水・祝)、5月6日(水・振替休日)各日午後2時~3時

申込不要、無料(ただし「日韓近代美術家のまなざし」展の当日観覧券が必要です)

子どもの日スペシャル・ギャラリーツアー

5月5日(火・祝)午前10時30分~11時30分

対象: 小学生以上(親子での参加もお待ちしております)

申込不要、無料(ただし高校生以上は「日韓近代美術家のまなざし」展の当日観覧券が必要です)

*関連プログラムの日程および講演者等は諸事情により変更となる場合があります。

最新の情報は当館ホームページ <http://www.moma.pref.kanagawa.jp> をご覧ください。

同時開催

神奈川県立近代美術館 鎌倉・鎌倉別館

鎌倉からはじまった。1951-2016

PART 1: 1985-2016 近代美術館のこれから[鎌倉別館/併陳 新収蔵作品] 4月11日(土)-6月21日(日)

神奈川県立近代美術館

鎌倉館 Tel. 0467-22-5000

鎌倉別館 Tel. 0467-22-7718

優待のご案内

「日韓近代美術家のまなざし」展の有料観覧券(65歳以上券、高校生券を除く)の半券を提示されると、同展会期中に限り、下記の施設に優待料金でご入場いただけます。

・神奈川県立近代美術館 鎌倉 Tel. 0467-22-5000

・葉山しおさい公園 Tel. 046-876-1140

・山口蓬春記念館 Tel. 046-875-6094

交通案内

- ・公共交通機関: JR横須賀線「逗子」駅前(3番のりば)または京浜急行「新逗子」駅前(南口2番のりば)から京浜急行バス「逗11,12系統(海岸回り)」で「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車(所要約15分)。
- ・車: 横浜横須賀道路逗子インターチェンジ、または横須賀インターチェンジからそれぞれ7~8km。

[葉山館駐車場(有料)のご案内]

営業時間: 午前8時30分~午後6時(入庫は午後4時30分まで) 5月3日(日)~5月6日(水・振替休日)は入庫が午後5時30分まで、営業が午後6時30分までとなります。

駐車料金: 1時間普通車400円、大型車1,200円

*観覧券をお持ちの方は1時間無料です。

*レストランやショップで2,000円以上ご利用いただいた方は、1時間無料となります。(併用で最大2時間無料)

*貸し切りバス等(定員11名以上)でご来館の場合、駐車場の予約および前面道路の通行許可申請が15日前までに必要です。団体名、連絡先、来館日時、台数をご連絡ください。Tel. 046-875-2800



神奈川県立近代美術館 葉山
The Museum of Modern Art, Hayama

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1
Tel. 046-875-2800
<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

